東海地区
現代俳句協会会報

第76号
令和4年6月30日
東海地区
現代俳句協会

現代俳句協会の着実なるあゆみのために

東海地区現代俳句協会
会長　永井　江美子

6月22日の朝日新聞に、昨年生まれた子どもの出生率が1899年以降最低となり、少子化の加速が鮮明になったと報じられた。

これは日本の人口減に繋がる深刻な問題である。そんな社会現象を見るにつけ、私たちの属している俳句界にも、じわじわと人口減少の波が押し寄せてきていることを感じている。それは、高齢化による会員減ではあるが、このままにしておいても良いということでは決してない。

現代俳句協会の会員は、私が東海地区の事務局になった当時会員数は八千とも九千人とも言われていた。しかし、その二十年後の現在、四千五百人を切ってしまっている。ちなみに令和3年度は403人の退会者があった。この数だけ見れば十年で4千人が退会することになり、協会の破滅に繋がってしまうのだ。幸い175名の新入会員があったから今すぐにどうなるというものではないが、楽観はできない現状ではある。協会本部もこれらの事象を重く受け止め、「会員増強委員会」を設定し、会員減少に歯止めをかけようと対策を講じている。

現代俳句協会は昭和22年石田波郷、神田英夫、西東三鬼を中心として計画、設立された会である。その当時の事は解らないが、私が所属している雑誌『韻』の〈長い時の流れの中〉執筆の後藤昌治氏によれば、

――昭和21年桑原武夫の「第二芸術」の発表後、昭和22年初夏、石田波郷は神戸に住む西東三鬼を訪ね、一緒に奈良あやめ池の橋本多佳子を訪ねたという。その後いろいろな事情が発展し、波郷と三鬼によって「現代俳句協会」の設立に繋がっていった――と記している。

大寒や転びて諸手つく悲しさ
西東三鬼

現代俳句協会を設立した頃の作品である。転ぶことの悲しさを知った人の悲願により現代俳句協会は立ち上げられたのだ。このような切なる願いによって設立された協会が、会員減少という波に煽られて衰退することは何としても避けたいと思う。

現在東海地区では、どのように会員減少を食い止め、若い人の入会を促したらよいか、理事会を開催し方法を探っているところである。

俳句の興隆は俳人の数で決まるものではないが、大勢の作家がそれぞれに切磋琢磨し、言葉の力や俳句形式と抗うことで明日の力となる。数は力となりうるのである。

俳句を始めてみたいという人があったら、ぜひともひと声かけ、皆のエネルギーでこの難関を突破したいと思っています。

第五回 鈴木しづ子顕彰記念事業
全国大学生俳句選手権大会
［募集案内］

資格　国内の大学・専門学校生のチーム
テーマ　「駅」「自由題」
賞　グランプリ／賞金五万円・準賞有
応募　応募無料・投句用紙ホーム頁より
チーム三句・人数・学校・学部名
代表名・住所・連絡先・年齢記載
期間　令和四年七月二十五日（月）迄
発表　第一次選八月中旬、結果郵送等
最終選考九月三日（土）犬山市民文化会館十四時四十五分～十七時半迄代表者参加にて競う
審査　神野紗希（ゲスト）・永井江美子・伊藤政美・他現代俳句協会役員
問合　名古屋市中区丸の内3－16－29
全国大学俳句選手権大会事務局
☎　052－951－3852
FAX　052－962－3256
メール　obo@daigakuhaiku.com

■青年部オンライン句会報■

第五回 特別講師　赤野四羽氏（二月）

背もたれの木を軋ませて大試験　岸　快晴
冬空へ跳ぶ少年の片ピアス　菊山　千月
ぶらんこの振れる限りの塀の外　岡田真由美
ソルフェージュの高音はづれシクラメン　村山　恭子
陽炎に影うつくしく逝きにけり　福林　弘子
友逝きて友のあつまる遅日かな　赤野　四羽

第六回 特別講師　なつはづき氏（五月）

触れた手に空のつめたさ夏みかん　千葉みずほ
回覧板なんじゃもんじゃの家へ置く　後藤麻衣子
墓石屋の名の無き墓石春の夕　朱夏
センサーで水の出てくる昭和の日　八木茂都子
「どうして」の言葉ばかりの四月尽　工藤　厚子
菜種梅雨ダニーボーイを繰りかへしつ　有本　仁政
耳鳴りに地の果ての声木下闇　ひらの浪子
くるぶしは少女のままに春の潮　永井江美子
夕立や君の言葉の端に立つ　なつはづき

■オンライン句会のご案内■

日時：十月八日（土）十三～十五時半
申込 tokai.genhai.seinenbu@gmail.com

東海地区現代俳句協会

犬山&鵜沼宿吟行句会

於・犬山市民交流センター
令和四年五月十五日（日）

◆秀逸

大賞　三叉路の一つは城へ青芭蕉　大見　春江

二位　学舎のからたちの花しづ子の忌　宮地　瑛子

三位　城下町知りつくしたる夏燕　八木茂都子

四位　水音も葉擦れの音も五月かな　平賀　節代

五位　くたと伏すからくり人形山車の底　神田ひろみ

◆選者特選作品

永井江美子　選

雑踏を返す踵や夏の恋　青山進一路

武馬久仁裕　選

夏兆す手を振る人に振り返し　原田　葉子

平賀　節代　選

山車蔵に火伏の神や花棟　丹羽　知子

小津　由美　選

城下町知りつくしたる夏燕　八木茂都子

前野　砥水　選

くたと伏すからくり人形山車の底　神田ひろみ

福林　弘子　選

水音も葉擦れの音も五月かな　平賀　節代

石川美智子　選

曇天やしづ子に抛る夏みかん　今井　真子

稲葉　千尋　選

曇天やしづ子に抛る夏みかん　今井　真子

大堀　祐吉　選

俳縁の友と茶房のソーダ水　増井　康子

神田ひろみ　選

閻といふ美しき文字青葉木菟　武藤　紀子

成木　幸彦　選

曇天やしづ子に抛る夏みかん　今井　真子

ひらの浪子　選

城下町知りつくしたる夏燕　八木茂都子

村山　恭子　選

学舎のからたちの花しづ子の忌　宮地　瑛子

武藤　紀子　選

学舎のからたちの花しづ子の忌　宮地　瑛子

今井　真子　選

くたと伏すからくり人形山車の底　神田ひろみ

◆句会参加者二句投句中一句

（各賞入選者を省く投句順）

矢車草揺れ寸秒の狂いだす　武馬久仁裕

薫風や濃尾眼下の白帝城　前野　砥水

夏つばめ白帝城を渦巻きて　村山　恭子

道を聞く人は旅人夏燕　小津　由美

鈴木しづ子や戟菜に白い花　藤尾　州

国宝の街の静かな溝浚へ　中村　誠一

初夏や道真すぐに犬山城　浜田　唯明

新緑の揺るる鵜沼の手打蕎麦　中野ひとし

隼人瓜偲ぶ薩摩や木曽三川　早川　正博

青葉騒白帝城に石落し　北野　武司

木曽川に満ちゆく鼓動聖五月　松永みよこ

初夏の城よせては返すもやひ舟　前田　敏男

前梅雨の川面だんまり城港　大田　風子

しづ子を尋ね路地裏五月闇　谷口　智子

曇天を突つ切ってゆく夏つばめ　上村えつみ

戦なき城は美しみどり燃ゆ　向井　泰子

合流の水音高し夏つばめ　津矢田豊子

余花に会うしづ子に会っているような　渡邊　淳子

風薫る城下の街を漫ろの歩　角野　弘子

電車待つ薫風の真ん中にゐて　村田佐和子

天水受満ちて昨日の走り梅雨　齋藤　保夫

鵜沼宿しじまの径つづきけり　稲葉　千尋

舟上の救命衣の朱薄暑光　野島　啓子

木曽川のゆったり流る夏始　川合いつ子

城下町の軒みな低し夏つばめ　大堀　祐吉

守り抜く城にけふ在る武者人形　石川美智子

もののふのごと犬山の夏燕　永井江美子

うすものにしづ子の翳り城下町　ひろの浪子

崩れゆく薄暑の中の五感かな　福林　弘子

初夏や石に躓く男坂　山口　正惠

病み上がり日傘で隠す犬山城　岡本　隆雄

石垣や幾年つきぬ史を積みぬ　松崎興治郎

レース着て子供の頃の高島屋　安本　武子

夏つばめ犬山城を横切ぎれる　都築　弘子

風青しげんこつ飴と父の手と　近藤　綾子

つばめ飛び城下街の倉くちる　都築　良平

樟若葉扉の長き山車の蔵　早川美千代

躊躇なく進みて迷う蝸牛　工藤　厚子

風の香や昔花街の細き路地　有本　仁政

山車倉に牡丹崩る犬山城　大田嘉代子

万緑やピンポイントに城の艶　藤岡せい子

城下町弁柄塀に走り梅雨　吉永　初恵

羽ひろげえさをただ待つ一羽の鵜　松田　美里

遠くから城の鯱見え鳥曇　岡本　千尋

戦国の城に住み継ぎ蟻地獄　成木　幸彦

野面積の大き石垣若葉風　竹内千賀子

十薬の坂を登れば水の音　藤瀬ゆつき

万緑に浮かぶ国宝天守閣　岩井　君代

茅花流し舟満杯の人乗せて　山西　玉美

◆三年振りに盛況なる吟行句会開催

四年度の吟行句会は、芭蕉の鵜沼宿と鈴木しづ子所縁の犬山城下で三年振りに開催されました。以前のように百名が集まる迄には及びませんでしたが、六十名の参加を得て盛況裡に終了しました。

次年度吟行句会のご案内

五年度吟行句会は三重県名和町、斎宮歴史博物館で開催されます。斎宮は飛鳥時代から南北朝時代に渡り、伊勢神宮の天照大神に仕えた皇女が棲んだ館跡です。

近鉄松坂駅にて各駅停車に乗換十分の斎宮駅から復元された史跡群を巡ります。

詳細は次年度会報にてご紹介しますが、開催日は五月二十一日（日）です。今から予定を空けておいてくださいね!!

第18回　現代俳句東海大会

俳句大会

日時　令和4年10月30日（日）
午後1時～午後4時40分

場所　ウインクあいち13階1304号室（名古屋駅より徒歩5分・ミットランドスクエア隣）

内容　入選作品発表・事前投句作品による講評・各賞発表・表彰（記念品贈与）

講演会

講師　斉藤吾朗　氏　　演題　「モナ・リザからのおくりもの」
西尾市在住・画家

•開催可否　コロナ禍による緊急事態発令時は、大会は中止とし事前投句の審査のみと致します。

大会作品募集要項

•応募規定　二句一組千円。何組でも応募可。但し新作未発表作品に限る。二重投句不可。
前書き不可。同封の投句用紙または200字詰原稿用紙を使用。1マスごとに楷書で書く。
氏名（俳号）にフリガナをつけ、住所、電話番号、会員・非会員の別を記載。
大会当日の出欠を明記。投句料は定額小為替（無記名）で必ず作品と同封の上郵送。
※大会には会員・非会員を問わず誰でも参加・投句できます。たくさんのご応募、お待ちしています。

•送付先　〒515－0505　三重県伊勢市西豊浜町1466
大西健司方　俳句大会作品係

•賞　大会賞、秀逸賞、佳作賞、選者特選賞

締　切　9月10日（土）当日消印有効

•懇親会　コロナ禍は終息の気配があるものの
懇親会は安全を期して中止と致します。

問合せ先
〒516－0035　伊勢市勢田町851－6
事務局　平賀節代
Tel・Fax　(0596) 25－6849
Eメール　setu1110@hi3/enjoy.ne.jp

永年会員、自薦句（未掲載の昭和十五年以前生れ）

囀れり木の天辺のまだ暮れず
生きものの潜んでをりぬ春の闇　四日市市　高尾田鶴子

落人の裔無口なる山桜
「ひまはりを蒔いて」と地下壕よりの声　伊勢市　橋本　輝久

夢想とはあてのないこと糸とんぼ
いつでも飛べる白シャツに風溜まり　四日市市　伊藤　政美

麦秋やダッタンの踊り歌ふこゑ
一歳になる子へアイスクリームの日　あま市　森　千恵子

大和三山鈴鹿七峰花曇
惜春の城址絵筆の遅遅として　四日市市　岡本　千尋

松の芯庭師の意地を通しけり
軽装も重装もゐる登山口　四日市市　中瀬　朝子

話さねば消える八月雲流る
憲法第十一条ビール飲んでおる　岡崎市　永井　清成

生きている生きてきた道冬欅
木々芽吹くこれからの老いどう生きる　安城市　井上　俊一

はぐれそうな病廊の奥青葉騒
新緑に駅頭防犯カメラ透く　松阪市　林　英男

黙祷多き八月の地球号泣す
砂場にも国境紛争夏落葉　大垣市　矢橋　郁子

ロシア侵攻猫は気儘に塀を越え
滑り台声滑り来る花の昼　豊橋市　神藤美智子

山茶花の散るを掃いてる竹ぼうき
水源の水漏れ悲惨植え田枯れ　刈谷市　鈴木　進

風薫る昨日は昨日今日は今日
梅雨に入る生きるという大仕事　守山区　田中　恵子

小判草振っては音を確かむる
万緑や潜水橋を郵便車　津市　奥田　久子

境界は水の捌け口鴨足草
葉桜の下の薄闇水の音　四日市市　角野　弘子

一人居や春の虚ろを釣り上げる
日焼けせし背表紙もまた青春　安城市　早川美千代

桐の花過去は鏡の中にゐる
菖蒲湯やふと安楽死思ひしも　大垣市　宮脇　眞

万緑や古戦場跡は雨の中
墳丘を仰ぎ植田に肥料撒く　津市　吉村　隆代

花へ添うしずしずの車椅子
散るさくら父母の匂いのおすそ分け　知多市　日比　光子

文明も洞もあやふし青葉木兎
挿木してわが影日々にあたらしき　伊勢市　前田　典子

六月十五日着にて締切り掲載は到着順

第十四回　鈴木しづ子顕彰会 小中高生「いのちの俳句大会」開催

応募は締め切りましたが、九月三日（土）十三時より犬山市民文化会館にて開催。
お孫さん同伴にての観賞お待ちしてます。
〒484－0895　犬山市羽黒摺墨十一

第59回　現代俳句全国大会

作　品　募　集

投句締切は8月1日（必着）

現代俳句全国大会は、年に一度、現代俳句協会が主催して行う伝統のある大会です。協会員に限らずどなたでも参加できますから、例年にも増してたくさんのご応募をお待ちしております。

◆応募規定◆

□**投句料3句一組・2千円**、何組でも可。ただし、新作未発表作品に限る。

［3組9句同時投句に限り、6千円を5千円にいたします］

前書き不可。所定用紙使用。〒、住所、お名前、電話番号、協会員・会員外の別を明記。投句料は普通為替、定額小為替（無記名で）、現金書留（必ず作品同封の事）、又は郵便払込（郵便局の青い払込取扱票をお使い下さい）

加入者名・福岡県現代俳句協会、振替口座番号・01770－4－1498

62・振替払込受領書のコピーを投句用紙に必ず貼付してください。

□**送付先**　〒807－0827　福岡県北九州市八幡西区楠木2－6－12　現代俳句協会全国大会　事務局　福本弘明　宛

☎093－602－6058

□**締切**　8月1日必着

□**顕彰**　協会の会員誌『現代俳句』に優秀作品を発表の他、協会刊行物に採録。

□**賞**　大会賞、後援団体賞、特別選者賞、秀逸賞、佳作賞。

□**全国大会**

令和4年11月12日（土）午後一時より、JR九州ステーションホテル小倉

〒802－0001　福岡県北九州市小倉北区浅野1丁目1－1

☎093－541－7111

□**記念講演**　平出隆　先生（詩人・多摩美術大学名誉教授）「蕪村を中心に」

□**講　評**　中村和弘会長はじめ協会幹部

□**懇親会**　午後5時より（会費6千円）

第二十四回東海地区現代俳句賞 募る

現代俳句界に新風を吹き込み、東海地区俳句活動の進展と充実を図るため、左の要領で作品を募集します。

・・・・・・・・・・・・・・

応募作品　雑詠二十句（未発表に限る。受付後の作品変更は不可）

○B4縦書（紙サイズ厳守）

四〇〇字詰原稿用紙二枚使用

○一枚目「題名」「郵便番号・住所・電話番号・俳号（氏名）」二行置きに記載

○二枚目　一行目から作品を並記し、二十行目までに二十句収める。

※応募原稿は返却しない。

応募資格　東海地区現代俳句協会員

応募料　なし

締め切り　令和四年九月十五日（木）（当日消印有効）

送稿先　〒五一六－〇〇三五　三重県伊勢市勢田町八五一－六　東海地区現代俳句協会事務局　平賀節代方「東海地区現代俳句賞」と朱記のこと

TEL・Fax　0596－25－6849

Setu1110@hi3.enjoy.ne.jp

・・・・・・・・・・・・・・

顕　彰・東海地区現代俳句賞　一名

賞状および賞金三万円

・奨励賞　若干名

賞状および賞金一万円

※定例総会席上にて授賞式

入賞発表　顕彰後発行する会報紙上

選考委員　会長が委嘱する地区役員

新規入会者、自薦句（直近三ヶ月入会者）

散歩カーの子ら手を伸ばし花吹雪
新しい校歌覚えて春の風　　安城市　野口　良恵

片蔭の坂道ひとり夫見舞ふ
秋天を蹴って少女の逆上がり　　知立市　荒井　浩子

桜狩り夢は吉野へ列車旅
蕭条と真白き庭に芽ぶきかな　　西尾市　大田嘉代子

モナリザは裕福ならむ春霞
仏蘭西の淑女の鮮シクラメン　　高山市　Araki

揚雲雀葺き替りたる御塩殿
蹲を清め春水満たしけり　　津市　富田志津子

生誕百年　小川双々子展のご案内

一宮所縁の俳人小川双々子展が、一宮博物館特集展示コーナーで開催されます。

期日　令和四年十二月二十日（火）～五年二月十二日（日）迄

場所　名鉄「妙興寺」南口～徒歩七分

東海地区現代俳句協会会報　第七十六号

令和四年六月三十日発行

発行者　永井　江美子

編　集　前野　砥水

名古屋市中村区猪之越町三－一－五

印　刷　ヨサ美印刷

事務局　平賀　節代　方

三重県伊勢市勢田町八五一－六